

甲佐町の文化財

〔 第三集 〕

ごあいさつ

現在の甲佐町は、昭和30年1月1日に、旧宮内村、旧甲佐町、旧龍野村、旧乙女村、旧白旗村の五ヵ町村が合併して成立し、令和7年はこの合併から70年を迎えます。

この70年の間に人口減少、少子・高齢化社会の進行、グローバル化と高度情報化の更なる進展、環境問題への認識の高まり、価値観やライフスタイルの多様化、平成28年熊本地震や豪雨をはじめとした頻発する自然災害や新型コロナウイルスの世界的な流行による安全・安心への意識の高まりなど、本町を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化してきました。

そうした昭和から平成、そして令和へと移り変わる時代の中で、歴史と伝統を守り紡いできた先人、そして町民の皆様のご協力により、この節目の年を迎えることができました。

甲佐町では、令和3年に策定した「第7次総合計画」（計画期間：令和3年度～令和12年度）において「人と自然が共生し、にぎわいを育む安全・安心・快適を実感できるまち」を基本理念として掲げ、その実現に向け、「地域資源を生かし、活力にあふれ、にぎわうまち」、「自然と共生し、安全・安心快適にくらせるまち」、「人を育み、交流するまち」、「協働してつくるまち」の4本の将来像を柱として、各種施策を推進しております。

甲佐町には、長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産である文化財が多数所在しており、令和4年度から町内文化財の調査を進め、本冊子の刊行にいたりしました。

この冊子をとおして、これまで培われてきた歴史や文化の継承とともに、文化財の保存や活用などを推進する契機となれば幸いです。

最後になりましたが、本書刊行にあたり日頃から町内文化財の保存管理に尽力されております文化財所有者の皆様、甲佐町文化財保護委員の皆様ほか多数の方にご協力をいただきました。関係者全ての方に心より御礼申し上げます。



令和7年3月
甲佐町
町長 甲斐 高士

はじめに

甲佐町は細川藩の行政区画である手永の一つであった甲佐手永とその町域が重なり、その後現在の名称と行政区画が同じである県内でも大変珍しい地域です。

また、歴史的には中世から現代に至るまで緑川舟運の出発地点として重要視された水陸交通の要衝であり、緑川舟運の起点に建立された、肥後国二宮である甲佐神社には鎌倉時代に肥後国の御家人竹崎季長が「蒙古襲来絵詞」（令和3年国宝）を奉納したとされるなど、古くから海と山を結ぶ水陸交通の結節点として栄えてきた歴史的文化資源にあふれた地域です。



甲佐町内には、昭和9年に国天然記念物に指定された「麻生原のキンモクセイ」や令和3年に国史跡に指定された「陣ノ内城跡」をはじめ、町指定文化財16件の他に200件を超える未指定文化財が所在しています。

これら文化財については、平成28年（2016）熊本地震により被災したものも多くありましたが、その多くは町民の皆様によって復旧される等、文化財は住民共有の財産であり、地域文化の象徴として大切にされて来ています。

そこで、甲佐町合併から70年を記念して、『甲佐町の文化財 第一集』（平成2年刊）と『甲佐町の文化財 第二集』（平成5年刊）を基に、町内の指定・未指定文化財について『甲佐町の文化財 第三集』としてまとめました。

この冊子が町民をはじめ多くの方々の目に触れることで、地域文化が再確認され、町内には多種多様な文化財が存在することをあらためて知っていただく機会となるとともに、住民共有の財産である文化財の保存と活用が図られ、次世代に継承される契機となれば幸いです。

最後になりましたが、本書編纂にあたり、日頃から町内文化財の保存管理に尽力されております文化財所有者の皆様、甲佐町文化財保護委員の皆様ほか多数の方にご協力をいただきました。関係者全ての方に心より御礼申し上げます。

令和7年3月
甲佐町教育委員会
教育長 蔵田 勇治

凡 例

1. 本書は、令和7年3月末現在の甲佐町所在の指定・未指定文化財の内、有形文化財及び記念物を紹介する冊子です。郷土芸能は今回未調査のため『甲佐町の文化財 第一集』及び『甲佐町の文化財 第二集』を参照ください。
2. 本書では、文化財保護法上の定義に基づく指定文化財だけではなく、先人達が守り伝え、地域の人々の文化活動により作り出されてきた歴史的・文化的価値のある未指定文化財を掲載しています。
3. 未指定文化財は下記の資料を基にし、併せてその後の調査で確認されたものについて、近代（幕末開国頃から第二次世界大戦終結頃まで）以前の甲佐町の歴史に関するものを、甲佐町文化財保護委員会において検討を重ねて掲載しました。そのため、下記資料中の文化財においては滅失したものや今回未確認のもの等については掲載を割愛しています。また、掲載する文化財の中にはその後の調査の結果、当時の名称と異なるものも確認されており、それらについては新たな名称を記載し、その後方に（旧： ）と記載しています。
なお、町内には数多くの未指定文化財が所在しているため、全てのものが網羅できているわけではありません。
 - ・『甲佐町の文化財 第一集』（平成2年刊）
 - ・『甲佐町の文化財 第二集』（平成5年刊）
4. 掲載順は宮内地区、甲佐地区、竜野地区、乙女地区、白旗地区とし、各地区内は行政区番号順に掲載しています。
なお、掲載行政区は、甲佐町行政区設置規則（令和2年4月1日施行）によっています。
5. 文中で参考とした主な文献の概要は次のとおりです。
 - ・『国郡一統志』
寛文7年（1667）細川藩の儒学者、北島雪山によって編纂された肥後で最も古い地誌。
藩内の寺社古城址名称が調査され、当時の村落で祀られていた寺社・祠堂の様子が分かる。
 - ・『肥後国誌』
明和9年（1772）森本一瑞が著した社寺縁起や古城の由来などを増補した地誌。
明治14年（1881）～17年（1884）に水島貫之・佐々豊水、大正5年（1916）に後藤是山が改定増補している。
 - ・『肥後国上益城郡神社明細帳』
明治12年（1879）明治政府が行った神社統制の記録。
全国統一の様式で、鎮座地・社名・祭神・由緒などが記載されている。
6. 本書では、石堂や石祠等の石造で本尊を保護する空間を持ち、屋根を持つものについて、神仏混淆の時代のものもあり、厳密に分離できないものもあることから「石室」と記載しています。
7. 掲載した図版の内、「町指定文化財 05. 鵜ノ瀬堰」で掲載した「緑川絵図」は熊本県立図書館の許可を得ています。

8. 掲載した写真の内、「167. 中山錦川遺跡」で掲載した写真は熊本県教育庁教育総務局文化課の許可を得、その他の写真や図版は甲佐町教育委員会社会教育課に著作権があり、保管しています。
9. 各文化財の解説は、甲佐町文化財保護委員会と甲佐町教育委員会が執筆し、甲佐町教育委員会が編集しました。

◆刊行に向けた組織

【甲佐町教育委員会】

教 育 長 田上 浩輝（～令和6年8月）
蔵田 勇治（令和6年12月～）
社会教育課長 内田 健司
文化財係長 上高原 聡
文化財係参事 奥村 伸二
文 化 財 係 松本 みどり（会計年度任用職員）

【甲佐町文化財保護委員会】

委 員 長 赤星 眞照
委 員 石坂 妙
北里 義友
成松 和夫

【協力者】

清村 一男（前甲佐町文化財保護委員長）
本田 莊一（前甲佐町文化財保護委員）
前川 清一（熊本県文化財保護審議会委員）
青木 勝士（くまもと文学・歴史館友の会 世話人）
石原 浩（八代市立博物館未来の森ミュージアム 学芸員）
市原 靖隆（熊本県阿蘇郡高森町立高森中学校 教諭）
有木 芳隆（公益財団法人永青文庫 副館長）
佐藤 征子（くまもと文学・歴史館協議会委員）
熊本県教育庁教育総務局文化課
熊本県立図書館
文化財保有者及び各行政区長

（順不同、敬称略）

目 次

【国指定文化財】

1. 天然記念物
麻生原のキンモクセイ…………… 2
2. 史跡 陣ノ内城跡
(旧：陣内館跡)…………… 4

【町指定文化財】

1. 陣ノ内城跡
(旧：陣内館跡)…………… 9
2. 船津東前横穴群…………… 9
3. 早川城跡…………… 10
4. 早川六地藏…………… 11
5. 鵜ノ瀬堰…………… 12
6. 円福寺跡阿弥陀如来坐像…………… 13
7. 目野薬師如来及び十二神将像
(旧：目野薬師堂)…………… 14
8. 松尾城跡…………… 15
9. 木造如来形坐像…………… 16
10. 緒方家文書…………… 17
11. 築の樋門…………… 18
12. 緑川上流通漕碑…………… 19
13. 下豊内の逆修碑
(旧：供養塔（逆修碑）)…………… 20
14. 薬王寺の宝篋印塔…………… 21
15. 津志田の逆修碑
(旧：津志田板碑)…………… 22
16. 豪淳の碑…………… 23

【宮内地区】

1. 広瀬旧道眼鏡橋…………… 27
2. トロッコ林道の鉄橋…………… 27
3. 広瀬阿弥陀堂…………… 27
4. 谷内阿弥陀如来像…………… 28
5. 本坂谷天満宮…………… 28
6. 金山…………… 28
7. 堂ノ原観音堂…………… 29
8. ミグマタイト…………… 29
9. 西原薬師堂…………… 29
10. 西原の宝塔…………… 30

11. 西原荒神…………… 30
12. 小鹿の堤…………… 30
13. 大王神社…………… 31
14. 井戸江の猿田彦大神…………… 31
15. 井戸江地藏堂…………… 31
16. 安平阿弥陀堂…………… 32
17. 甲佐大明神降坐之碑…………… 32
18. 石の間臥（旧：石ノ間伏）…………… 32
19. 御手洗橋…………… 33
20. 御手洗神社…………… 33
21. 安平の猿田彦大神…………… 33
22. 甲佐神社…………… 34
23. 上揚弁財天…………… 36
24. 上揚の板碑…………… 36
25. 上揚仁王堂…………… 36
26. 日枝神社（山の神）…………… 37
27. 上揚の猿田彦大神…………… 37
28. 上揚観音堂
(旧：上揚阿弥陀堂)…………… 37
29. 神宮寺住職の板碑…………… 38

【甲佐地区】

30. 尾北の猿田彦大神…………… 41
31. 尾北眼鏡橋…………… 41
32. 白象山 永明寺
(旧：永明寺)…………… 41
33. 永明寺阿弥陀堂…………… 42
34. 東寒野地藏尊…………… 42
35. 白石板碑…………… 42
36. 堂迫眼鏡橋…………… 43
37. 大祇神社…………… 43
38. 大祇眼鏡橋…………… 43
39. 宮園地藏尊…………… 44
40. 千才丸の猿田彦大神…………… 44
41. 西の観音菩薩…………… 44
42. 西の猿田彦大神…………… 45
43. 小川島六地藏…………… 45
44. 小川島の猿田彦大神…………… 45
45. 鵜ノ瀬堰観音菩薩…………… 46

46.	上豊内の猿田彦大神	46
47.	やな場（旧：上豊内やな）	46
48.	緑川製糸場跡記念碑	47
49.	四方仏（旧：上豊内四方仏）	47
50.	玉造神社 （旧：西宮八幡宮）	47
51.	上豊内阿弥陀堂	48
52.	法念寺跡の板碑	48
53.	稲荷大明神	48
54.	下豊内薬師堂	49
55.	下豊内釈迦堂	49
56.	下豊内阿弥陀堂	49
57.	下豊内横穴群	50
58.	下豊内新井手隧道	50
59.	とくどうさん	50
60.	甲南橋地藏 （旧：岩下地藏尊）	51
61.	恵比寿神社	51
62.	井芹経平先生生誕の地 記念碑	51
63.	天理教熊明分教会	52
64.	光縁山 教栄寺	52
65.	岩下地藏堂	52
66.	甲佐井手（大井手）	53
67.	仁田子地藏尊	53
68.	仁田子の猿田彦大神	53
69.	仁田子菅原神社	54
70.	大町の板碑	54
71.	立岩神社	54
72.	田上氏里の碑	55
73.	岩鼻神社	55
74.	八角塔（旧：清正公供養塔）	55
75.	新井手（上井手）と 清正公山地蔵尊	56
76.	横田観世音堂	56
77.	長楽山 正宗寺	56
78.	横田の猿田彦大神	57
79.	横田地蔵堂	57
80.	有安の猿田彦大神	57
81.	有水山 正法寺	58

【竜野地区】

82.	目野の石造物	61
83.	カワベニマダラ	61
84.	宮野観音堂	61
85.	中尾釈迦堂	62
86.	若一王神社	62
87.	木原寿八郎の碑 （旧：木原寿八郎碑）	62
88.	中横田阿弥陀堂	63
89.	下横田天神社	63
90.	清涼山 寿専寺 （旧：清涼山寿専寺）	63
91.	宇佐園の猿田彦大神と 明治45年洪水記念碑	64
92.	下横田の石造物	64
93.	御崎大明神	64
94.	祇園社	65
95.	九折阿弥陀堂	65
96.	下横田六地藏	65
97.	浅井観音堂	66
98.	若宮神社	66
99.	日吉神社（将軍堂）	66
100.	浅井猿王権現堂	67
101.	田代歳神	67
102.	田代阿弥陀堂	67
103.	田代の猿田彦大神	68
104.	田代地藏	68
105.	大谷歳神	68
106.	大谷観音堂	69
107.	光明山 皓月寺	69
108.	大峯遺跡	69
109.	大峯菅原神社 （旧：大峰菅原神社）	70
110.	大峯地藏尊	70
111.	大峯馬頭観音 （旧：大峰馬頭観音）	70
112.	下大峯の観音堂（四方仏）	71
113.	城平板碑	71
114.	上知行の天神社	71
115.	上知行薬師堂	72

116. 下知行の猿田彦大神	72	151. 世持妙見社	87
117. 幸野の地藏堂	72	152. 虚空蔵菩薩 (こくんぞさん)	87
118. 海陸大明神	73	153. 世持天神社	88
119. 清水の遊水池	73	154. 世持地藏尊	88
120. 小原山ノ神	73	155. 荒人神社 (旧：三賀神社)	88
121. 小原観音堂	74	156. 南三箇水天宮	89
122. 伝承阿蘇惟前墓	74	157. 南三箇観音堂	89
123. 大原地蔵堂	74	158. 南三箇阿弥陀堂	89
124. 山口観音堂	75	159. 南三箇六地藏	90
125. 六谷地藏尊	75	160. 明神堂	90
【乙女地区】		161. 南三箇大平観音、水神	90
126. 船津磨崖五輪塔と 磨崖板碑	79	162. 中山の板碑	91
127. 谷の観音堂	79	163. 中山菅原神社	91
128. 船津地藏堂	79	164. 中山むさしさん	91
129. 船津観音堂	80	165. 中山地藏堂	92
130. 迫の大乘妙典一部石塔	80	166. 中山横穴群	92
131. 船津六地藏	80	167. 中山錦川遺跡	92
132. 船津支石墓 (ドルメン)	81	168. 津志田菅原神社	93
133. 山口薬師堂	81	169. 津志田地蔵尊	93
134. 山口の猿田彦大神	81	170. 乙女山 光現寺	93
135. 山上神社	82	171. 津志田八幡宮	94
136. 船津の猿田彦大神	82	172. 津志田地蔵尊 (宮坂地藏)	94
137. 船津阿蘇神社	82	173. 長興寺薬師堂と 熊野座神社	94
138. 船津仏像堂	83	174. 長興寺跡の宝塔群	95
139. 桜地藏	83	175. 津志田のなまず塚	95
140. 麻生原菅原神社	83	176. 田口彌城天神	95
141. 麻生原観音堂	84	177. 上田口不動尊堂	96
142. 麻生原の猿田彦大神	84	178. 田口菅原神社	96
143. 光明山 青蓮寺	84	179. 上田口薬師堂	96
144. 麻生原伊勢堂	85	180. 法性山 聞得寺 (旧：法陞山聞得寺)	97
145. 麻生原天神社	85	181. 下田口地藏堂	97
146. 麻生原金八 (水神)	85	182. 田口小一領神社	97
147. 塔の木さん古墳 (旧：麻生原塔ノ木古墳)	86	183. 下田口観音堂	98
148. 世持・石佛遺跡と 世持・道免遺跡	86	184. 下田口六地藏	98
149. 世持沢水池	86	185. 田原板碑	98
150. 世持地藏堂	87	186. 田原観音堂	99
		187. 和田内天神社	99

188. 和田内阿弥陀堂	99	219. 辺場阿弥陀堂	114
189. 山伏塚	100	220. 金戸水神（火の神）	114
190. 府領観音堂 （旧：府領毘沙門堂）	100	221. 古閑菅原神社	114
191. 府領若宮社	100	222. 古閑の墓碑	115
192. 府領首塚	101	223. 宝珠山 光西寺	115
		224. 八丁神社	115
		225. 八丁十一面観音堂 （旧：八丁観音堂）	116
【白旗地区】		226. 八丁十一面観音堂の 石造物群	116
193. 辛崎神社	105	227. 八丁の板碑	116
194. 照月山 浄林寺	105	228. 山出六地藏	117
195. 養寿院	105	229. 山出神社（大武宮）	117
196. 養寿院跡の石造物群	106	230. 山出板碑	117
197. 玉堂山 玉祥寺	106	231. 魚住源次兵衛碑	118
198. 承陽山 西福寺 （旧：浄陽山西福寺）	106	232. 園田神社（古神社）	118
199. 宮地獄神社	107	233. 山出薬師堂	118
200. 早川菅原神社（早川三社） （旧：菅原神社）と早川天神像	107	234. 芝原巖島神社	119
201. 早川熊野座神社（早川三社） （旧：熊野座神社）	107	235. 芝原のキリーク種子板碑	119
202. 早川の宝篋印塔 （旧：早川宝篋印塔）	108	236. 芝原のウン種子板碑	119
203. 長石山 薬王寺（虚鐸山薬王寺） （旧：薬王寺長石山）	108	237. 吉田神社	120
204. 早川巖島神社（早川三社）	109	種類別指定文化財一覧表	121
205. 早川の猿田彦大神	109	指定文化財一覧表	121
206. 北早川菅原神社	109	テーマ別索引	122
207. 北早川の猿田彦大神	110	甲佐町 文化財所在地図	129
208. 四堂崎阿弥陀堂	110	宮内地区 文化財所在地図	131
209. 四堂崎庚申塔	110	甲佐地区 文化財所在地図	133
210. 四堂崎の経塚	111	竜野地区 文化財所在地図	135
211. 四堂崎の三尊板碑	111	乙女地区 文化財所在地図	137
212. 四堂崎逆修碑 （旧：四堂崎経塚）	111	白旗地区 文化財所在地図	139
213. 植木阿蘇神社	112	主な引用・参考文献	141
214. 観音堂	112		
215. 糸田の板碑	112		
216. 糸田の猿田彦大神	113		
217. 糸田水神	113		
218. 垣原水神（柿原水神）	113		